

令和 3 年 5 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00927

研究課題名（和文）宗教の国際的共通性 - 多様性の解明と社会への影響

研究課題名（英文）International commonality of religion: understanding of diversity and impact on society

研究代表者

川端 亮 (KAWABATA, Akira)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：00214677

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,900,000円

研究成果の概要（和文）：アメリカ、イタリア、ロシア、トルコ、インド、タイ、台湾などとともに日本も一次元の共通宗教性が抽出できる。共通宗教性は祈り、瞑想、神秘体験に影響し、幸福感、利他性、文化活動などに影響する。日本においても宗教性はこれらの項目と関連する。

共通宗教性は、調査した日本、アメリカ、トルコにおいては、コロナの影響の前後であまり変化がなかった。このことは、宗教性は時代の変化にあまり影響されないことを示している可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本を含めて世界の宗教を正しく測る尺度として、世界共通の宗教性尺度を作り、その尺度で測定された宗教性が人々の社会生活や意識に与える影響を明らかにした。それによってキリスト教と同じく、日本においても宗教が人々の生活にプラスに働いていることを学術的に明らかにした。日本の宗教はキリスト教などとは違い、独特であり、宗教に騙されるなどという悪いイメージを持つ一般の日本人にとって、宗教のプラスの側面を明らかにした本研究は社会的にも意義がある。

研究成果の概要（英文）：Like the United States, Italy, Russia, Turkey, India, Thailand, Taiwan, Japan can also extract one-dimensional common religiosity. Common religiosity affects prayer, meditation, mystical experiences, happiness, altruism, and cultural activities. Common religiosity is also related to these items in Japan.

The common religiosity did not change much in Japan, the United States, and Turkey surveyed before and after the COVID-19 pandemic. This may indicate that religion is less influenced by changes in the times.

研究分野：宗教社会学

キーワード：宗教性 国際比較 測定 社会意識

### 1. 研究開始当初の背景

宗教の研究者ではない日本人の社会学者も、研究者ではない多くの一般の日本人も、宗教が人々の生活を左右する重要な価値観の一つであるとは考えていない。それは、SSM 調査（社会階層と社会移動の全国調査）や JGSS 調査（日本版総合的社会調査）など日本の主要な学術的社会調査の質問票に宗教に関する項目は取り上げられていないか、ごくわずかであることから明らかである。しかしながら、グローバル化する世界の中で見れば、宗教は人間の根本的な価値観の一つである。テロや紛争の多くは、もちろん経済やエスニシティの問題も関係しているが、それとともに宗教という価値観も大きく関係している。したがって世界では宗教は学術的に主要な要因として調査されてきている。現在、多くの国で繰り返し調査が行われているヨーロッパ価値観調査や世界価値観調査、ISSP (International Social Survey Programme) 調査のいずれにおいても宗教は重要な要因として、かなり多くの項目数で尋ねられている。ところが、日本では、宗教は重視されていない。

一方、ヨーロッパ価値観調査や世界価値観調査、ISSP 調査などの世界で行われている調査も問題点を含んでいる。それらの調査で宗教の測定は、キリスト教に偏った測定方法である。イスラームなどの他の一神教や世界で第3位の信者数を擁するヒンドゥー教などの多神教を含む宗教の測定方法は十分に発達していない。宗教が正しく測れていなければ、これまで欧米で示されてきた宗教の社会行動や社会意識への影響も正しいかどうか疑問である。グローバル化する社会の中で生じる諸問題の根本にある宗教性を正しく測ることができるのか、またその社会における効果は、日本でも他の国でも存在するのか、本研究の核心をなす「問い」である。

### 2. 研究の目的

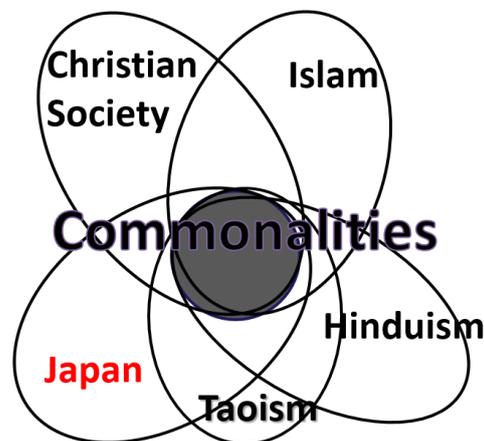
本研究の目的は、日本を含めて世界の宗教を正しく測る尺度として、世界共通の宗教性尺度と各国個別の宗教性尺度を作ること、そしてその尺度で測定された宗教性が人々の社会生活や意識に与える影響を明らかにすること、である。それによって宗教が人々の生活にプラスに働いていることを学術的に明らかにするとともに、特に一般の日本人にも知られるように努め、日本人に宗教のプラスの側面を知ってもらうこともまた、重要な目的である。

### 3. 研究の方法

宗教性の測定において、一般には、各国で自国内の宗教性を独自の質問項目で測定することが主流であった。アメリカはアメリカのキリスト教的な宗教性の尺度を開発してきた。1963年の Lenski (1963) の The Religious Factor や Glock and Stark の 5 次元 (1965)、Allport and Ross (1967) の intrinsic と extrinsic などから始まり、Hill and Hood は、1999年に Measures of Religiosity を編集し、宗教性を測定するための 100 種類以上の尺度をまとめた。しかしそこで示されている尺度はたとえば、God Concept Scales や Forgiveness Scale から Spirituality や Mysticism の尺度であった。これらは、God も Forgiveness も日本の宗教にはない概念であり、Spirituality や Mysticism も「スピリチュアリティ」や「神秘主義」という日本語に翻訳された日本の概念とは異なるものであるため、日本の宗教を測るための尺度として適切ではないことは明らかである。これらはアメリカのキリスト教的な宗教性をとらえているが、日本の宗教や、たとえばイスラームなどもとらえることはできない。同じく日本人の研究者においては、オカゲやタタリを含む日本人の宗教性を測定する研究（金児 1997）や日本人の自然観を強調する宗教性の研究（西脇 2004）などが日本の宗教をとらえているといえるが、これらでは逆にキリスト教的な宗教性やイスラームをとらえることはできない。イスラームの国の研究では、キリスト教的な宗教性の測定を批判し、たとえば「神」を「アラー」に置き換えるなどその一部の用語を改変して、イスラームにも適用できる宗教性を測定しようとする研究があるが（Krauss et al. 2006, Montaz et al. 2010）、それはまたキリスト教圏にも多神教の国や日本には適用することができない。

その中で本研究は、まず宗教文化を超えた共通性が存在するという前提から出発している点で独創的である。ヨーロッパ価値観調査や世界価値観調査、ISSP 調査などにおいては、「宗教を信じるか」「神を信じるか」「あの世を信じるか」などのいくつかの共通の質問文で数十カ国の宗教性を測ろうとしている。しかし多くの日本の宗教研究者は、日本の宗教においては宗教の基本的な概念（例えば「神」「宗教」「霊」）すら、欧米と大きく異なる（真鍋 2003）ので、これらの質問文では日本の宗教性が正しく測定されていないと主張している。たとえばキリスト教社会であるアメリカで用いられた質問文の God を「神仏」に置き換えるような翻訳で質問しても、日本の宗教は正しく測定できない、質問文には等価性がないと批判されている。つまり、国際比較調査で測定されている宗教性は、世界の異なる宗教文化を超えて、共通の宗教性を測ろうとする試みであるが、そこで測られている宗教性は極めてキリスト教的で特定文化に偏っているとされている。

本研究でも異なる宗教文化を超えた共通する宗教性（右の図の Commonalities）の存在を仮定するが、新しい方法によって、キリスト教に偏らない宗教性を抽出できるという立場に立つ。私たちのグループは、平成 25-29 年度の基盤研究（A）「生命主義と普遍宗教性による多元主義の展開—国際データによる理論と実証の接合」（研究代表者：星川啓慈）のメンバーが主となっており、この研究から得られた知見にもとづくものである。3 回にわたる 8 カ国調査において蓄積されたデータを分析した。データを収集する質問文においては、独創的な質問文を新たに作成し、社会学の研究ではあまり用いられていない DIF (Differential Item Functioning) 分析とラッシュモデルによる分析を用いて、共通となる質問文と各国固有で共通とならない質問文を選別した結果、異なる宗教文化を持つ 8 カ国で共通する一次元の尺度が構成できる見通しをもち、キリスト教に偏らない真の意味での国際共通尺度を確認しようとする。



#### 4. 研究成果

2018 年度に研究会を重ね、以下のことを分析できる調査項目を再検討した。

- 1) 文化の異なる各国は、確かに異なる宗教文化を持つが、共通の宗教的信念に関する尺度が存在するといえることをこれまで調査していない国を調査して、確認する。
- 2) それが一次元で他の調査でも用いることができる尺度になるように構成する。
- 3) 各国独自の宗教性が各国で祈り、瞑想、神秘体験に対してどのように影響しているかを明らかにしているが、これまで調査していない国でも調査をして、同じ結果が得られるかを確認する。
- 4) 各国独自の宗教性が、幸福感、利他性、文化活動などにどのように影響しているのかを明らかにしているが、これまで調査していない国でも寛容性やジェンダー観を含めて調査をして、同様の結果が得られるかを確認する。
- 5) 共通性を構成する項目とともに各国で共通でない項目も含めて、日本独自の、あるいは各国、各宗教文化独自の宗教性を測る質問文を作成する。共通性とともに各国の特異性を捉えることで、共通性と特異性の関連がどのようになっているのか、また社会意識や社会的行動との関連が、共通性と特異性で同じなのか、あるいは関連の仕方が異なるのか、さらには国によって、その関連は異なるのか、など多様な問題の解明に発展させていく。

2019 年にまず日本で先行調査を実施した。その結果を検討し、質問票を修正し、アメリカ、ドイツ、インドネシアを対象に調査の準備を進め、調査実施の準備を整えた段階で、新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大した。その影響により、世界的に調査を実施できる状況ではなくなったため、調査を 2020 年度に延期した。

2020 年になってもコロナの影響は小さくなるどころかますます大きな影響を及ぼすようになっていった。調査項目の中には、死について、不幸について、災害と神の罰などについて尋ねる調査項目が含まれている。調査対象国であるアメリカ、ドイツもインドネシアも急速に新型コロナウイルスの感染が拡大し、とくにアメリカやドイツでは多くの死者が出る状況になり、コロナ以前の状況で調べていた宗教意識調査の結果と新型コロナウイルスの流行後の宗教意識の結果は、新型コロナウイルスの影響を受けて、回答が大きく変化する可能性が考えられた。つまり新たなドイツやインドネシアでのデータが得られたとしてもそれはコロナ以前の 2018 年以前と大きく変わっている可能性が考えられたため、これまでのデータがあるアメリカとトルコを対象とした調査を行って、コロナの影響があるかどうかを確かめた。

これらの研究によって明らかになったことは以下のとおりである。

- 1) 宗教文化が異なる国の間でも共通して測定できる尺度が存在するという仮定の下で、各国の宗教文化によらない言葉を用いた質問文（イエスやアラーなどの言葉を使わない質問文）をもちい、ラッシュモデルで分析すると、アメリカ、イタリア、ロシア、トルコ、インド、タイ、台湾などとともに日本も一次元の共通宗教性が抽出できる。
- 2) 共通宗教性は祈り、瞑想、神秘体験に影響し、幸福感、利他性、文化活動などに影響し、日本においても宗教性はこれらの項目と関連する。
- 3) 各国に共通する宗教性と異なり、日本では現世主義が独自の宗教性である可能性が示唆された。この点はさらに繰り返して調査し、検証する必要がある。
- 4) 「死を恐れる」や「死について心配しても仕方がない」などの死に関する意識は変化しているが、共通宗教性は、少なくとも調査した日本、アメリカ、トルコにおいては、コロナの影響の前後であまり変化がなかった。このことは、宗教性は時代の変化にあまり影響されないことを示している可能性がある。しかしながら、オイルショックによって宗教を信じる人が急減した過去の事例もあることから、時代の影響と宗教の関係はさらに検討を要する。
- 5) 一方で幸福感や性別役割分業意識などの社会意識のいくつかはコロナ前後で変動している場合もみられた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 松野智章	4. 巻 56
2. 論文標題 「信仰盲」という分析概念はかのうか - 8 国調査を踏まえての日本における宗教意識の考察 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 269-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyajima, Shunichi	4. 巻 14
2. 論文標題 Religion and Violence : Theoretical and methodological aspects	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Graduate School of Letters	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/jgs1.14.1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮嶋俊一	4. 巻 34
2. 論文標題 「死者と関わる」ということについて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較文明	6. 最初と最後の頁 6-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川（間瀬）恵美	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 Quality of Deathを考える 宗教学（宗教多元主義）の立場から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本老年社会学	6. 最初と最後の頁 139-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真鍋一史	4. 巻 3
2. 論文標題 宗教意識の国際比較 『因子分析』と『最小空間分析』に関する方法論的検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 青山地球社会共生論集	6. 最初と最後の頁 1-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihide Sakurai	4. 巻 6(3)
2. 論文標題 Sexual Abuse in a Korean Evangelical Church in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Religion in Japan	6. 最初と最後の頁 208-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井義秀	4. 巻 37
2. 論文標題 人口減少時代における<限界化する>宗教法人	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教法	6. 最初と最後の頁 95 - 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立田由紀恵	4. 巻 第3章
2. 論文標題 「ボスニアにおける宗教共存の伝統ーポジティブな文化ナショナリズムに向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 池澤優(責任編集)『政治化する宗教、宗教化する政治』第3章	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawabata, Akira	4. 巻 5
2. 論文標題 Measuring Religious Commonalities: Details from Three Internet Surveys	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Osaka Human Sciences	6. 最初と最後の頁 185-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shunichi MIYAJIMA	4. 巻 15
2. 論文標題 On the Complementarity between Phenomenological and Statistical Approaches for Prayer Research including East Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JouJournal of the Graduate School of Letters of the Graduate School of Letters	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮嶋俊一	4. 巻 158
2. 論文標題 祈りとしての「祝詞」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道大学文学研究院紀要	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真鍋一史	4. 巻 ミネルヴァ書房
2. 論文標題 宗教多元主義の方向と平和の探求	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地球社会共生のためのシャローム	6. 最初と最後の頁 111-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立田由紀恵	4. 巻 リトン
2. 論文標題 ボスニアにおけるユダヤ人の歴史と社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一神教世界のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集	6. 最初と最後の頁 395-417
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 1. 清水香基	4. 巻 25
2. 論文標題 宗教意識の諸側面と主観的ウェルビーイングから見るそのはたらき (テーマセッション報告: 現代アジアにおける宗教の役割と多様性 環境政策、移住民支援、社会運動、ウェルビーイング)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教と社会	6. 最初と最後の頁 229-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横井桃子	4. 巻 41
2. 論文標題 日本人の宗教性の構造 「宗教的な心」を用いた検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋大学社会学論集	6. 最初と最後の頁 83-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Miyajima, Shunichi
2. 発表標題 Significance of the Narrative in Spiritual Care
3. 学会等名 FirFirst International Conference on Philosophy and Meaning in Lifest International Conference on Philosophy and Meaning in Life (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyajima, Shunichi
2. 発表標題 Religion and Violence
3. 学会等名 48th ISCS (International Society for the Comparative Study of Civilizations ) International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川(間瀬) 恵美
2. 発表標題 Quality of Deathを考える 宗教学(宗教多元主義)の立場から
3. 学会等名 日本老年社会科学学会第60回大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川(間瀬) 恵美
2. 発表標題 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』世界文化遺産登録に因んで
3. 学会等名 宗教間対話研究所 第124回研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川(間瀬) 恵美
2. 発表標題 他者に対する寛容なところを
3. 学会等名 NHK「宗教の時間」第二放送ラジオ(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋庭裕
2. 発表標題 "西欧キリスト教圏におけるSGIの受容と発展 リーダーシップ、およびコンテンツとパッケージに着目して
3. 学会等名 関西社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺光一
2. 発表標題 宗教研競争と信教の自由
3. 学会等名 宗教学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mitsuharu Watanabe
2. 発表標題 Common Structure of Religious Belief among Eight Countries
3. 学会等名 religiosity, secularity, and religious measurement in East and West (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真鍋一史
2. 発表標題 社会調査のデータ分析の方法論的検討 『因子分析』と『最小空間分析』
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshihide Sakurai
2. 発表標題 Conservative Swing of Japanese Politics and Soka Gakkai 's Political Participation
3. 学会等名 East Asian Society of Scientific Study of Religion (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshihide Sakurai
2. 発表標題 How do rationality and empathy deal with "well-being" and "well-dying" in organ transplant and life-prolonging medication?
3. 学会等名 International Meeting of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立田由紀恵
2. 発表標題 ボスニア・ヘルツェゴビナのユダヤ共同体 - 迫害を知らないヨーロッパのユダヤ人
3. 学会等名 同志社大学—神教学際研究センターCISMOR Conference「ユダヤ教の諸相とその周辺 "Aspects of Judaism and Beyond"」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川端亮
2. 発表標題 世界八か国における共通の宗教性と宗教度：調査の概要と発見
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川端亮
2. 発表標題 SGIにおける入信過程の図式化 - 御利益信仰から利他性を身につけるプロセス -
3. 学会等名 第69回関西社会学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 長谷川（間瀬）恵美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 296
3. 書名 深い河の流れ	

1. 著者名 櫻井義秀、平藤喜久子、川又俊則、板井正斉、片桐資津子、猪瀬優理、横山忠範、稲本琢仙、李 賢京、袴田俊英、清水香基	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 346
3. 書名 しあわせの宗教学	

1. 著者名 櫻井 義秀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 438
3. 書名 宗教とウェルビーイング	

1. 著者名 Fenggang Yang, Francis Jae-ryong Song, and Sakurai Yoshihide eds	4. 発行年 2019年
2. 出版社 MDPI	5. 総ページ数 160
3. 書名 Religiosity, Secularity and Pluralism in the Global East	

1. 著者名 伊達聖伸、小川公代、木村護郎、クリストフ、内村俊太、江川純一、オリオン・クラウタウ、加藤久子、立田由紀恵、井上まどか、西脇靖洋、見原礼子、岡本亮輔、諸岡了介、増田一夫、白尾安紗美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 352
3. 書名 ヨーロッパの世俗と宗教 近世から現代まで	

1. 著者名 Naoki Kashio & Carl Becker	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kyoto University Press/Trans Pacific Press	5. 総ページ数 231
3. 書名 Spirituality as a Way	

1. 著者名 岡部美香、老松克博、野坂祐子、管生聖子、権藤恭之、白川千尋、川端亮、青山太郎、高森順子、檜垣立哉、辻大介、三浦麻子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 250
3. 書名 越える・超える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	立田 由紀恵  (Tatsuta Yukie)  (10619745)	多摩大学・グローバルスタディーズ学部・その他    (32695)	
研究分担者	松野 智章  (Matsuno Tomoaki)  (20723662)	大正大学・文学部・非常勤講師    (32635)	
研究分担者	渡邊 光一  (Watanabe Mitsuharu)  (30329205)	関東学院大学・経営学部・教授    (32704)	
研究分担者	秋庭 裕  (Akiba Yutaka)  (40222533)	大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授    (24403)	
研究分担者	弓山 達也  (Yumiyama Tatsuya)  (40311998)	東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・教授    (12608)	
研究分担者	櫻井 義秀  (Sakurai Yoshihide)  (50196135)	北海道大学・文学研究院・教授    (10101)	
研究分担者	宮嶋 俊一  (Miyajima Shunichi)  (80645896)	北海道大学・文学研究院・准教授    (10101)	
研究分担者	真鍋 一史  (Manabe Kazufumi)  (90098385)	統計数理研究所・大学共同利用機関等の部局等・客員教授    (62603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	長谷川・間瀬 恵美  (Hasegawa-Mase Emi)  (90614115)	桜美林大学・リベラルアーツ学群・准教授     (32605)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関